

科目名	異文化ゼミナール	科目コード	1152	単位数	2
担当者名	山口 晴敬	開講セメスター	第2セメスター	開講年次	1年次
授業の方法	講義	到達目標	B	実務経験	無
ナンバリング	BSe202	DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

● 授業のねらい

日本と異なる韓国のポップカルチャーを様々な調査活動を通じて体験し、広い視点から豊かな人間形成に役立つ幅広い教養と異文化理解の能力を身につけること。そして本学に来ている交換留学生たちとの積極的な交流活動を通じて異文化コミュニケーション能力を向上させること。予定される学内アクセスポイントが整備された際には、学内アクセスポイントを用いてオンライン上のデータを授業で使用し、ICT(情報通信技術)の利活用の方法を学ぶ。

● 到達目標

日本と異なる韓国人の生活・文化などを、様々な文化ジャンルを通じて体験し、その体験から国家間存在する異文化の理解を深めることを目標とする。また本ゼミでは、「体験学習」、「調査学習」、「グループ・ディスカッション」、「グループ・ワーク」、「プレゼンテーション」などの取り組み方法や学習姿勢を身につけることがもう一つの目標である。

● 授業内容

- 1週目 オリエンテーション及び日本と韓国の間存在する異文化に関する基礎知識の確認
- 2週目 「異文化」調査に必要な参考資料（図書館資料など）の確認及びその調査方法に関する「グループワーク」
- 3週目 日本における韓流
- 4週目 ハングルと世宗大王
- 5週目 日韓関係の今及び「グループ・ディスカッション」
- 6週目 現代の韓国ドラマから理解する韓国文化
- 7週目 韓国料理と食文化について、オンラインでのリサーチやデータ収集(学内アクセスポイント使用予定)
- 8週目 韓国の民主化運動とその歴史
- 9週目 韓国映画に映す韓国社会の理解及び「グループ・ディスカッション」
- 10週目 日本と韓国の「遊び文化」の比較
- 11週目 韓国の「伝統遊び」を通じた異文化の理解：『ユンノリ』の体験学習
- 12週目 日本と異なる韓国文化に関する個人研究調査発表 及び「ディベート」その1
- 13週目 日本と異なる韓国文化に関する個人研究調査発表 及び「ディベート」その2
- 14週目 日本と異なる韓国文化に関する個人研究調査発表 及び「ディベート」その3
- 15週目 日本と異なる韓国文化に関する個人研究調査発表 及び「ディベート」その4
- 16週目 グループ・ワーク(テーマ：日韓、日中の間に存在する異文化)及びグループ・ディスカッション
但し、やむを得ず15回のゼミが実施できなかった場合、補講ゼミを実施

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：本学のEラーニングシステムであるCoursePowerもしくはGoogle Classroomを利用し、毎週事前に提示される予習課題の作成や次回のゼミ資料を読むこと。（必要な予習時間：2時間程度）
復習：毎回のゼミ中に提示される復習課題を完成し提出することや、ゼミ内容のまとめノートを作成し提出すること。（必要な復習時間：2時間程度）

● 成績評価の方法・基準

課題(事前の資料調査、作成された発表文等)：20%、
「体験学習」や「グループ・ディスカッション」結果の報告書：20%、
個人研究調査発表：30%、
レポート(個人研究調査発表に対するフィードバックレポート等)：30%

● 履修上の留意点

本ゼミは、原則、対面のみで実施される。
全ての課題に対する提出先は本ゼミの「Google Classroom」のみとする。
ゼミ中、事前許可なしでの通話、写真撮影、LineなどのSNS使用は厳禁。
成績の評価は、10週以上出席した学生を対象とする。
新聞や雑誌、ウェブサイトなどから韓国の文化や社会に関する記事を日頃からよく読むように心がけること。

● 課題に対するフィードバックの方法

全ての提出課題（レポート、感想文、発表資料など）に対し、毎回採点を行い、点数とコメントをGoogle Classroomを通じてフィードバックを行う。

● テキスト

特になし。必要な講義資料は本学のEラーニングシステムであるCoursePowerもしくはGoogle Classroomを利用し配布する。

● 参考書

延 恩株（2021）『韓国ことばと文化』（論創社）2,200円

● 更新日付

2024/02/24 09:24